

3月のGlobal Session レポート (2026)

期日：2026年3月29日(日) 10:30~1:00

場所：ガレリア3階 会議室

ゲスト：濱田雅子さん(アメリカ服飾研究者・神戸市在住)

タイトル：濱田雅子の服飾講座『服飾から見た生活文化』第30回

テーマ：「古代メソポタミアの服飾史を紐解く」

コーディネーター：亀田博さん(ツアーコンダクター・大津市在住)

参加者

オンライン参加者：3名

ガレリア参加者：11名

亀田さん(コーディネーター)：では、自己紹介をお願いします。

S・Hくん(マレーシア出身)：亀岡高校1年生で、もうすぐ2年になります。世界史の勉強をしていきたいです。

A・Hさん(マレーシア出身・英語・中国語)：中学1年生です。

N・Tさん：ひまわり教室(外国につながる子どもの学習支援室)の指導をしています。

南丹市でも、外国につながる子どもの支援で、「くらす」をやっています。

M・Yさん：中東情勢に無関心ではいられなくて参加しました。(元教育委員)

R・Sさん：ひまわり教室の支援をしています。

K・Wさん：市役所の国際係にいます。中国やドイツに住んだことがあります。服飾史もべんきょうしたいと参加しました。

児嶋：1999年に亀岡交流活動センター在職時代にGlobal Sessionを始め、2011年に退職後は、オフィス・コン・ジュントで主催していますので、かれこれ20年以上つづけています。月に一度で、レポートも出しています。

佐々木さん：このセンターの職員です。

E・Oさん：今日は、枚方から来ました。JTの子会社で勤務しています。実はこの3月25日に結婚をし、枚方市役所に結婚届を出したところです。

N・Kさん：立命館大学4回生です。ひまわり教室の指導もしています。

亀田博さん：ツアーコーディネーターをしています。ペルシャには行ったことがあります。

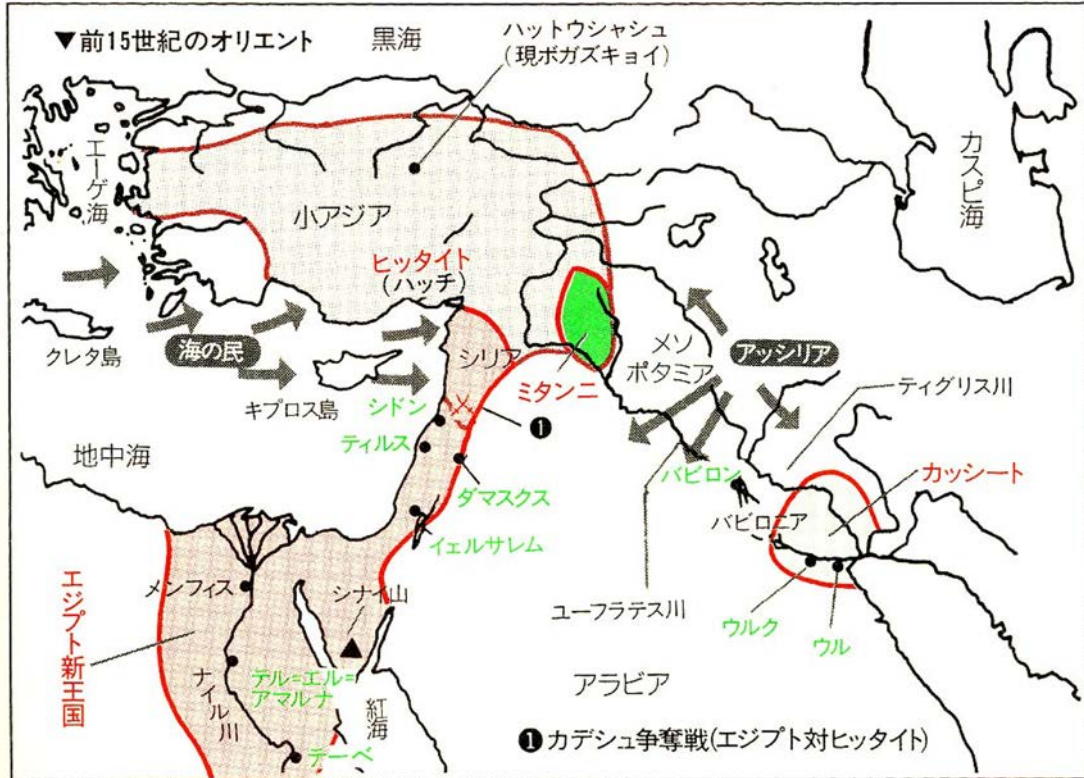
では、濱田先生、自己紹介をしてレクチャーを始めてください。

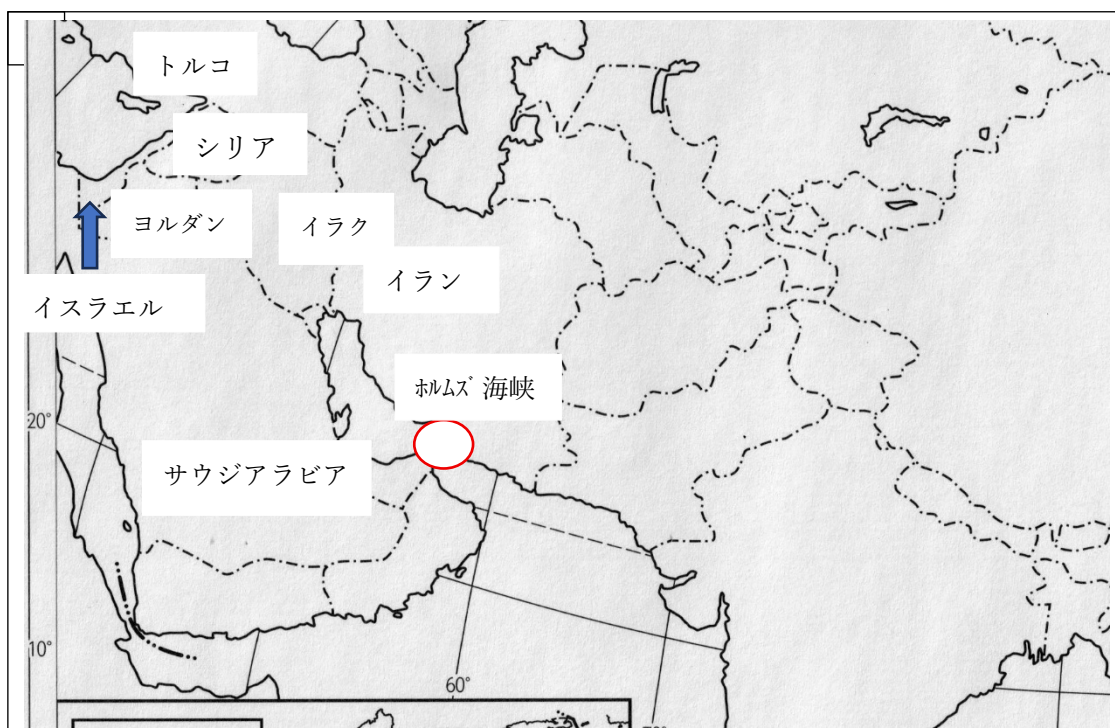
(オンライン参加者)

M・Mさん：会社の経営をしています。アメリカのワシントン州にあるコロンビア大学にも行っていました。帝塚山で実家は江戸時代から林業をしています。

K・Iさん：Global Sessionとのつながりは長く、レポートもいただいています。関西にいましたが、今は東京にいます。2011年にグアテマラやニカラグアの先

住民のコミュニティに入り、女性の権利に関心を持ちました。その後博士号を取り研究を続けています。法政大学で非常勤講師をしています。





講演レポート 2026.3.29

古代メソポタミアの服飾史を紐解く

—西アジアにおける衣文化の形成と現代的意義—

アメリカ服飾社会史研究会会長

濱田雅子

はじめに

本講演は、西アジア、とりわけメソポタミア地域を中心に、古代文明における服飾の成立と発展を、歴史的背景とともに総合的に考察することを目的としたものである。講演では、単なる衣服の形態的変遷にとどまらず、織物技術、染色技術、宗教観、社会構造との関係に着目し、服飾を「文化の総体」として捉える視点が提示された。

また本講演の特徴は、古代史の枠にとどまらず、現代のイランおよびイラクの歴史的状況にも言及し、古代から現代へと連続する文化の流れの中で服飾を理解しようとする点にある。

Ⅰ メソポタミア文明と服飾文化

メソポタミアは、チグリス川・ユーフラテス川流域に展開した人類最古級の文明圏であり、都市国家の成立、灌漑農業の発達、冶金技術の進歩などにより高度な文化を形成した。この地域では、王権と宗教が密接に結びつき、富と権力が集中した社会構造が成立していた。

こうした背景のもと、服飾は単なる生活必需品ではなく、**社会的地位や宗教的意味を表現する重要な文化要素**となった。宮殿の浮彫や壁画、彫像などの資料からは、刺繍や房飾りを多用した高度な装飾性を持つ衣服が確認される。これは、織物技術の著しい発展を示すと同時に、視覚的表現としての服飾の重要性を物語っている。

II バビロニアにおける服飾

バビロニアは、シュメール文化を基盤として発展し、ハムラビ王の時代に法制度とともに高度な国家体制を築いた。この時代の代表的衣服が「カウナケス」である。

カウナケスは、もともと羊皮を素材とした衣服であったが、織物技術の進展により、毛皮の質感を織物で再現する技術が生まれた。この点は、素材から技術へという服飾の転換を示す重要な事例である。

また、祈念者像に見られるように、この衣服は宗教的实践とも深く結びついており、**衣服が信仰の媒介として機能していた可能性**が示唆される。

III アッシリアの服飾

アッシリア帝国は、軍事的拡張を背景に西アジアに広大な領域を築き、その文化は多様な影響を受けながら発展した。服飾においては、刺繍や複雑な文様、さらには腕輪や装身具などの装飾が顕著に見られる。

特に注目されるのは、服飾が**権力の象徴として機能している点**である。浮彫に描かれた王や貴族の衣装は、精緻な装飾とともに威厳を強調し、政治的権威を視覚的に表現している。また、エジプト文化の影響も確認され、古代における文化交流の広がりを示している。

IV ペルシア帝国と服飾

ペルシア帝国は、広大な領域を統合した多民族国家であり、その服飾も多様な文化の融合によって形成された。代表的な衣服には「ペルシア服」「メディア服」「カンディス」などがあり、衣服形態の多様性が特徴である。

特に重要なのは色彩であり、黄色や紫色が象徴的に用いられた。紫は貝紫染料によって生み出される極めて貴重な色であり、**王権や高貴性の象徴**として用いられた。2000個の貝からわずか1グラムしか得られないという希少性は、色彩が社会的階層と密接に結びついていたことを示している。

V 染色文化と貝紫

講演では、染色技術にも焦点が当てられた。特に貝紫は、古代地中海世界において極めて重要な染料であり、王侯貴族の象徴とされた。

さらに興味深いのは、18世紀メキシコの先住民による貝紫染色との比較である。彼らは貝を殺さずに染料を採取し、自然と共生する形で染色を行っていた。この比較から、**同じ染**

料であっても文化的文脈によって意味や技術が大きく異なることが明らかとなる。

VI 現代的視点から見たイランとイラク

本講演では、古代メソポタミアの地に連なる現代国家であるイランおよびイラクについても言及された。

イランは、古代ペルシア帝国の伝統を継承しつつ、イスラム化を経て独自の文化を形成してきた。1979年のイラン革命以降は、イスラム法に基づく政治体制のもとで、宗教と文化が強く結びついた国家となっている。このような背景は、服飾にも反映され、特に女性の衣服（ヒジャブという被り物）には宗教的規範が色濃く影響している。

一方、イラクは古代メソポタミア文明の中心地でありながら、20世紀以降は戦争と政治的混乱に見舞われてきた。イラン・イラク戦争、湾岸戦争、さらに2003年のイラク戦争以降、社会は大きく変容した。このような状況の中で、伝統的文化の継承は困難を伴いながらも続けられている。

これらの現代的視点を導入することにより、古代の服飾文化が単なる過去の遺物ではなく、**現在に至る文化の連続性の中で理解されるべきものである**ことが示された。

おわりに

本講演は、古代メソポタミアの服飾を起点として、西アジア文化の広がりとその現代的意義を明らかにしたものである。服飾は単なる外見の問題ではなく、文明の構造そのものを映し出す鏡である。本講演は、そのことを改めて強く認識させるものであった。

今後は、クレタ・ギリシアへと展開される予定であり、地中海世界への文化の連続性を追究する上で、本講演は重要な基盤となると考えられる。

質疑応答

1. カウナケスの時代考証はどのようにして行われたのか。
2. メソポタミアの服飾文化は自然環境や社会的条件にどの程度影響を受けたか。
3. 紫が身分の高い人の服装の色であったとのこと、日本の古代の服装の紫との関係性について。伝播したのか。
4. エジプトのナイル川とメソポタミアのチグリス・ユーフラテス川の両文明の違いについて。
5. ペルシア王国の地図にトルコが含まれていることについて。

回答

1. シュメール初期王朝を象徴する「カウナケス」は、素材利用の進化を物語ります。
 - **造形的根拠:** 「男性祈念者像」(横浜ユーラシア文化館蔵) やルーヴル博物館の彫像に見られる「鋭く尖った層状の房」は、羊の毛束を重ねた写実的な表現であり、カ

ウナケスが当初「毛皮」であった強い証左です。

2. 自然環境と素材への影響

- **動物性繊維（羊毛）**：乾燥した草原地帯は牧畜に適しており、羊を中心とした家畜から得られる「羊毛」が主要な素材となりました。初期は毛皮をそのまま利用し、後にその質感を織物で再現する「カウナケス」などのパイル状毛織物が発達しました。
- **植物性繊維（亜麻）**：二つの大河による灌漑農業は、繊維植物の栽培を可能にしました。通気性に優れたリネンは、酷暑の気候下で巻き衣やチュニックとして、羊毛と組み合わせて重用されました。

3. **貝紫**：地中海産の紫貝 2,000 個からわずか 1g しか採れない染料は、ペルシアにおいて高貴な支配者の象徴となりました。

- **日本への影響**：この「紫＝最高位」の概念はシルクロードを渡り、日本の「冠位十二階」へ繋がりました。正倉院の「連珠紋（れんじゅもん）」や「獅子狩紋（ししかりもん）」などのペルシア風紋様は、その文化的交流の結晶です。

4. エジプトとメソポタミアは共に大河の恩恵を受けましたが、河川の「性質」の違いが文化に大きな差をもたらしました。

- **ナイル川（エジプト）**：洪水が「定期的」で予測可能だったため、自然への信頼に基づく楽観的な来世観が育まれました。素材は河畔で栽培される「リネン（植物性）」が主流となりました。

ティグリス・ユーフラテス川（メソポタミア）：洪水が「不規則」で荒ぶるものだったため、現実的で悲観的な死生観が形成されました。開放的な草原地帯であったため、常に他民族（ヒッタイトやトルコ系の王朝など）の侵入に晒され、素材は牧畜による「ウール（動物性）」が主役となりました。

5. イランとイラクの歴史を語る上で、北方に隣接するトルコ（古くはヒッタイトやオスマン帝国）の存在は不可欠です。

- **古代の衝突**：紀元前、小アジア（現トルコ）から侵入したヒッタイト人などは、バビロニアの歴史に大きな影響を与えました。
- **現代史とトルコ**：イラクはトルコと国境を接しており、宗教や資源を巡る関係が続いています。また、イラク国内のクルド自治区ではトルコとの政治的・言語的な繋がりも見られます。
- **イランとの対照**：イランは 11 世紀以降、テュルク系（トルコ系）王朝の支配を受ける時期もありましたが、ペルシャ人としての独自の官僚機構や文化を維持し続けました。

The Formation of Clothing Culture in West Asia and Its Contemporary Significance

Presenter: Masako Hamada

President of the American Society for the Social History of Costume

Introduction

The objective of this lecture is to comprehensively examine the establishment and development of costume in ancient civilizations, focusing primarily on West Asia and the Mesopotamian region, within their historical contexts. Rather than merely tracing morphological changes in garments, the lecture presents a perspective that views costume as a "total cultural entity," highlighting its relationship with textile and dyeing technologies, religious beliefs, and social structures.

A distinguishing feature of this presentation is its scope; it extends beyond ancient history to address the contemporary historical situations of Iran and Iraq, seeking to understand costume within a continuous cultural flow from antiquity to the present day.

I. Mesopotamian Civilization and Clothing Culture

Mesopotamia, developed in the basins of the Tigris and Euphrates rivers, was one of the world's earliest cradles of civilization. It formed a sophisticated culture characterized by the establishment of city-states, the advancement of irrigation agriculture, and progress in metallurgy. In this region, a social structure emerged where royal power and religion were closely intertwined, concentrating wealth and authority.

Against this backdrop, clothing became more than a basic necessity; it evolved into a vital cultural element expressing social status and religious significance. Evidence from palace reliefs, murals, and statuary reveals highly decorative garments featuring extensive embroidery and tassels. This signifies a remarkable advancement in textile technology and speaks to the importance of costume as a medium for visual representation.

II. Costume in Babylonia

Babylonia developed upon a Sumerian cultural foundation and established a sophisticated state system and legal code during the reign of King Hammurabi. The representative garment of this era is the **Kaunakes**.

Originally made from sheepskin, the Kaunakes evolved alongside textile technology, leading to techniques that replicated the texture of fur using woven cloth. This serves as a significant example of the transition in costume from raw material to applied technology. Furthermore, as seen in votive statues of worshippers, these garments were deeply connected to religious practices, suggesting that clothing functioned as a medium for faith.

III. Assyrian Costume

The Assyrian Empire established a vast territory across West Asia through military expansion, and its culture developed under diverse influences. In terms of costume, there is a prominent use of embroidery, complex patterns, and ornamentation such as bracelets and jewelry.

Of particular note is how clothing functioned as a symbol of power. The attire of kings and nobles depicted in reliefs emphasized dignity through intricate decoration, visually manifesting political authority. Additionally, influences from Egyptian culture can be identified, illustrating the breadth of cultural exchange in the ancient world.

IV. The Persian Empire and Costume

The Persian Empire was a multi-ethnic state that integrated vast territories, and its costume was formed through the fusion of various cultures. Representative garments included "Persian dress," "Median dress," and the **Kandys**, characterized by a high diversity of forms.

Color was of particular importance, with yellow and purple used symbolically. Purple, produced from Tyrian purple dye, was an extremely precious hue used as a symbol of royalty and nobility. The rarity of this dye—requiring 2,000 shellfish to produce just one gram—demonstrates how color was intimately linked to social hierarchy.

V. Dyeing Culture and Tyrian Purple

The lecture also focused on dyeing techniques. Tyrian purple was an essential dye in the ancient Mediterranean world, reserved for royalty and the aristocracy.

Interestingly, the lecture provided a comparison with the Tyrian purple dyeing practiced by indigenous peoples in 18th-century Mexico. They harvested the dye without killing the mollusks, practicing a form of dyeing that coexisted with nature. This comparison reveals how the same dye can carry vastly different meanings and technical approaches depending on the cultural context.

VI. Iran and Iraq from a Contemporary Perspective

The lecture addressed the modern states of Iran and Iraq, which occupy the lands of ancient Mesopotamia.

- **Iran:** While inheriting the traditions of the Ancient Persian Empire, Iran formed a unique culture through Islamization. Since the 1970s, under a political system based on Islamic law, it has become a nation where religion and culture are strongly linked. This background is reflected in costume, particularly in women's clothing (the hijab), which is heavily influenced by religious norms.
- **Iraq:** Despite being the heartland of ancient Mesopotamian civilization, Iraq has faced war and political turmoil since the 20th century. Following the Iran-Iraq War, the Gulf War, and the 2003 Iraq War, society has undergone massive

transformation. In this environment, the transmission of traditional culture continues despite significant hardships.

By introducing these contemporary perspectives, the lecture demonstrated that ancient clothing culture is not merely a relic of the past but something to be understood within a continuity of culture leading to the present.

Conclusion

This lecture clarified the expansion of West Asian culture and its modern significance, using ancient Mesopotamian costume as a starting point. Clothing is not merely a matter of appearance; it is a mirror reflecting the very structure of a civilization. The presentation reinforced this realization. Future sessions are expected to cover Crete and Greece, providing a vital foundation for pursuing the cultural continuity into the Mediterranean world.

Q&A Session

Q1: How was the periodization of the Kaunakes determined? A1: The Kaunakes, symbolic of the Early Dynastic Period of Sumer, tells the story of the evolution of material use.

- **Plastic Evidence:** The "sharply pointed, layered tassels" seen in the *Statue of a Male Worshipper* (Yokohama Museum of EurAsian Cultures) and statues in the Louvre are realistic representations of layered tufts of sheep's wool. This is strong evidence that the Kaunakes was originally "fur" or "hide."

Q2: To what extent was Mesopotamian clothing culture influenced by the natural environment and social conditions? A2: * Animal Fibers (Wool): The arid grasslands were suitable for pastoralism. "Wool" obtained from livestock, primarily sheep, became the primary material. Initially, hides were used as-is, but later, pile-like woolen fabrics such as the Kaunakes were developed to replicate that texture through weaving.

- **Plant Fibers (Linen):** Irrigation agriculture facilitated by the two great rivers enabled the cultivation of fiber plants. Breathable linen was highly valued in the intense heat, often used as wraps or tunics in combination with wool.

Q3: Regarding Tyrian purple as a color for high-ranking individuals—is there a relationship with the use of purple in ancient Japanese clothing? Did it spread to Japan? A3: The concept of "Purple = Highest Rank" traveled across the Silk Road and eventually linked to Japan's "Twelve Level Cap and Rank System." Persian-style patterns found in the Shosoin repository, such as the *Renjumon* (beaded border) and *Shishikarimon* (lion hunt) patterns, are the physical manifestations of this cultural exchange.

Q4: What are the differences between the Nile civilization in Egypt and the Tigris-Euphrates civilization in Mesopotamia? A4:

While both benefited from great rivers, the "nature" of the rivers created vast cultural differences.

- **The Nile (Egypt):** Floods were "periodic" and predictable, fostering an optimistic view of the afterlife based on trust in nature. The primary material was plant-based **linen** grown along the riverbanks.
- **Tigris & Euphrates (Mesopotamia):** Floods were "irregular" and violent, leading to a pragmatic and pessimistic worldview. As an open grassland, the region was constantly exposed to invasions by other groups (such as the Hittites or Turkic dynasties). Consequently, the primary material was animal-based **wool** from pastoralism.

Q5: Regarding the inclusion of Turkey in the map of the Persian Empire. A5:

The presence of Turkey (historically the Hittites and the Ottoman Empire) to the north is indispensable when discussing the history of Iran and Iraq.

- **Ancient Conflicts:** In the BC era, the Hittites, who invaded from Asia Minor (present-day Turkey), significantly impacted Babylonian history.
- **Modern History:** Iraq shares a border with Turkey, and their relationship regarding religion and resources continues. Furthermore, the Kurdistan Region of Iraq maintains political and linguistic ties with Turkey.
- **Contrast with Iran:** Although Iran was at times ruled by Turkic dynasties (from the 11th century onwards), it consistently maintained its own unique Persian bureaucracy and culture.

4月のGlobal Session

期日：2026年4月25日（日）10：30～12：00

場所：ギャラリー3階 会議室

ゲスト：友前（藤原）尚子さん（くらるず事務局長）

タイトル：「となりのムスリム・ムスリマ」

参加費：600円